

白老文化観光推進実行委員会の「白老文化芸術共創」  
初年度の評価、課題を踏まえ2年目事業を展開 8月27日～10月10日  
「壁画制作」や「灯台再点灯」、「イルミネーション」…

「アヨロ鼻灯台再点灯」「商店街壁画」「商店街イルミネーション」「じゃがいも版画作品展覧会」「竹浦で撮影した映像作品展示」「人形劇団の滞在・作品制作・発表」「白老の土による土面制作」「住民企業とのコラボによる太平洋を見渡すウッドデッキテラス制作」など事業の実施を予定しています。アーティストが町内を訪れ、歴史・伝承・文化や地域の営みを地元関係者とともにリサーチし作品化、大町商店街ほか町内各所で展示、展開します。文化芸術+観光のフォーラム開催も予定しています。

ほか、ウイマム文化芸術プロジェクトとの共創で、昨年好評だった「歩いて巡る屋外写真展」を虎杖浜地区で展示場所を増やし継続。さらに「社台」の堤防沿いの倉庫やコンテナなど10数カ所で展開する予定で、白老の東西両端エリアに新しい景色が生まれます。

同推進実行委の中村諭事務局長にアートと観光の共生を目指した同活動を語っていただきました。



「アートと観光の共生」は、町民の生活に根ざり、まちづくりの核となるべきです。アートは、町民の生活に寄り添い、まちの魅力を高める役割を果たすことができます。観光は、町民の生活を支え、まちの魅力を伝える役割を果たすことができます。アートと観光の共生は、まちの活性化に大きく貢献すると思います。

「白老の根っこ（ルーツ）は観光に結び付く地域資源」

「白老の根っこ（ルーツ）は観光に結び付く地域資源」は、町の歴史や文化、自然環境などを活かした観光資源を指します。例えば、白老の歴史ある建物や、美しい自然環境、伝統的な文化などが、観光客を惹きつける魅力となっています。また、町民の生活や文化も、観光資源として活用することができます。観光は、町民の生活を支え、まちの魅力を伝える役割を果たすことができます。アートと観光の共生は、まちの活性化に大きく貢献すると思います。

白老文化芸術共創「ROOTS（ルーツ）&ARTS（アート）SHIRAOI」は、国の委託事業「日本博」として、アイヌ協会や商工会、観光協会、建設協会、町内会連合会、文化団体連絡協、NPO、青年会議所などの有志メンバーがまちぐるみで立ち上げた白老文化観光推進実行委（会長・熊谷威二白老商工会会長）が展開するプロジェクトです。白老の「文化芸術」と「観光経済」をつなぎ合わせたまちの活性化が目標です。

昨年はアーティストが一定期間白老に滞在し作品を制作したり、イラストレーターら複数のアーティストが白老の土地に残る伝承や歴史に焦点を当て制作した作品展など、空き店舗などを活用して町内6会場を周遊する展覧会を開催。また、「多文化共生のまちづくりと文化観光施策の可能性」と題したセミナー（講演会）を開催しました。

町観光大使 お願いします！

イタリア・スペイン料理のオーナーシェフ・栗原靖武さん(45)  
東京に本町の食材を使った専門店をオープン予定



栗原さんは千葉県在住。炭火で炊くパエリア（スペイン料理）専門店のオーナーシェフで、日本パエリア協会事務局長です。

7年前に本町の町民と出会い、「食の王国白老」を知ったのを機に、令和2年には町の商品開発事業で「しらおいパエリア」を監修、3年にはポロトミンタラフェスで大鍋によるしらおいパエリアを振舞い会場を盛り上げました。今年10月には東京都港区に、本町の食材を使った専門店「(仮称)白老食堂」をオープンする予定です。

戸田安彦町長から委嘱状を受け取った栗原さんは「この町で衝撃を受けた白老牛や虎杖浜のたらこなどの食材を、東京でたくさんの人に発信していきたい」と話していました。観光大使は栗原さんで15組目。過去には本町が生産地のクラシック三冠馬「オルフェーヴル号」もいます。（6月17日）